受賞おめでとうございます

しまね景観賞

「日刀保たたら鳥上木炭銑工場」「横田山の会」

▲日刀保たたら鳥上木炭銑工場

第１６回「しまね景観賞」の表彰式が２月１２日、松江市のサンラポーむらくもで行われ、民間建築物部門で「日刀保たたら鳥上木炭銑工場」が、活動部門で「横田山の会」がそれぞれ優秀賞に選ばれました。

同景観賞は、県内の魅力ある景観を創出している町並みや建造物および活動などを公募、審査、選考を経て表彰するもので、応募総数１７０件の内、奥出雲町から２点が選ばれました。

同木炭銑工場は、世界で唯一、日本刀の材料となる玉鋼を生産している工場で、建築物群が穏やかな色調のこげ茶色で統一され、周囲の山々や付近の住宅との良好な調和を見せていることが、また横田山の会は、生育が難しいカタクリの保存活動を、２８年の永きにわたって取り組んでいる点などが高く評価されました。

▲横田山の会活動の様子

大仁地区更生保護女性会「更生保護奨励賞」

▲大仁地区更生保護女性会仁多・横田支部の皆さん

奥出雲町と雲南市の旧大原地域の女性で組織される大仁地区更生保護女性会(梶谷宣子会長他110名)に、日立みらい財団(東京)から更生保護奨励賞が贈られました。(全国で８団体が受賞)

同会は、昭和３４年に結成されて以来５０年の永きにわたり、非行防止や犯罪防止活動を柱に、県下の更生保護施設や学校への「愛の図書」の寄贈をはじめ、公民館行事や放課後こども教室の協力など、青少年の健全育成に寄与されています。梶谷会長は「今回の表彰を今後の活動の励みに、これからも会員が力を合わせ、犯罪のない明るい社会づくりに貢献したい」と話されました。

仁多こども見守り隊

「島根県犯罪のない安全で安心なまちづくり賞」

町内の通学路における子供たちの見守り活動を行う自主防犯ボランティア団体「仁多こども見守り隊」が、昨年度創設された「島根県犯罪のない安全で安心なまちづくり賞」を受賞しました。

現在会員は１８名で、青色回転灯によるパトロールをはじめ、公民館と連携した子供とのふれあいの場を通じた安全指導など幅広い活動を行っています。

代表を務める藤原幸治さんは「町民の方に活動を理解してもらっていることに感謝したい。これからも子供たちの安全確保はもちろん、地域の防犯の一助となり、事故を未然に防げればうれしい」と話されました。

▲溝口知事から表彰を受ける藤原幸治会長

地域活動に貢献

「しまねナイスパートナー」 永濱　哲夫さん・順子さん

第４回「しまねナイスパートナー」の選定状交付式が２月１３日、島根県庁であり、下横田在住の永濱哲夫さん、順子さんご夫妻に溝口知事から選定状と記念品が贈られました。

哲夫さんは、横田山の会会長として、船通山の自然保護活動やキャンプのインストラクター、民泊体験施設でのそば打ち講師など幅広く活躍。

また、高齢者グループ「ぎばまークラブ」の代表として、地域活動や子供会の参加などにも積極的に参画されています。

順子さんは、「八川こども文庫」の代表とし、小学生への本の読み聞かせや目の不自由な方への音訳ボランティアなど地域の読書活動の推進に貢献されているほか、障害をもつ方の自立支援活動や共同作業所「ふきのとう」の設立に尽力されました。お二人は、分野は違いますが、強い使命感と信念を持ち、地域に貢献されています。

六十八名が学舎を後に

第八回 島根リハビリテーション学院 卒業証書授与式

▲島根リハビリテーション学院卒業証書授与式の様子

第八回島根リハビリテーション学院の卒業証書授与式が三月十日、カルチャープラザ仁多で開催され、保護者や在校生、岩田町長をはじめ多くの来賓など約四百人が出席しました。

今年の卒業生は、理学療法学科三十六人、作業療法学科三十二人で、厳しい学院での教育課程、長期に及ぶ臨床実習を経てこの日を迎えました。

式では、下山誠学院長から一人ひとりに卒業証書が授与され、「皆さんの体に備わった心身の調節機能をよく理解して、これから逸脱しない生活を送り、平静の心を持って患者さんに接し、学院で学んだことを心の糧に、多くの人から信頼される立派な医療人になって下さい」と告辞がありました。

これを受けて、出雲市出身の金本直也さんが「地域をはじめ多くの方々に支えていただいた。壁にぶつかっても、学院で過ごした四年間の経験と思い出を胸に、乗り越えていきたい」と卒業生を代表して、感謝のことばを述べました。

式の後、交流を続けている三成保育所の五歳児十八人による、げんき太鼓が披露され、お世話になったお兄さん、お姉さんにエールを贈りました。

なお、卒業生には大学院の入学資格が与えられる「高度専門士」の称号が付与され、これから全国の病院や医療現場でセラピスト（療法士）として活躍します。

島根デザイン専門学校・奥出雲工芸房で卒業・修了証書授与式

▲島根デザイン専門学校卒業証書授与式の様子

島根デザイン専門学校と併設する奥出雲工芸房の卒業・修了証書授与式が三月十二日に行われました。

卒業生は、この学校で学んだ知識・技術を活かして、今後様々な分野で活躍します。

女性のための健康講座

三月一日から八日までは、「女性の健康週間」です。

奥出雲町では、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を過ごしてもらうため、日本産婦人科学会島根地方部会との共催で三月七日、カルチャープラザ仁多において「女性のための健康講座」を開催しました。

はじめに、町立奥出雲病院副院長で産婦人科部長の友塚義人医師から、県内や奥出雲病院における産婦人科の現状について講演があり、産婦人科医療に対する意識が「信頼医療」から「契約医療」に変り、結果が重視され、訴訟が日常茶飯事に起きている。また、県内の産婦人科医師も都市部に偏在し、医師不足や高齢化が進み深刻な状況であることを指摘。

産婦人科診療の灯を消さないためにも、地域全体で考えていく必要があると話されました。

次に、島根大学医学部産科婦人科の宮崎康二教授から「三十代から四十代に見られる産婦人科疾患」について講演があり、「女性が病気にかかりやすい時期は、ちょうど人生の中で一番忙しい時期であり、家事や子育て、仕事を優先する間に、自分の健康が後回しになっている。女性の体はとてもデリケートで、男性に比べ女性特有の病気も多く、成長とともに変化している。

特に子宮頸がんは、晩婚化、少子化で増えた病気であり、二十代から検診を受けてほしい」と話されました。

参加者は自らの健康、地域の産婦人科医療について考える良い機会となりました。